

ほん屋12号店

2017年(平成29)年11月 店主:学生図書委員会2年
(桑江・玉城・福井)

高専祭が終わって、それぞれどんな思い出となったでしょうか？良い思い出になっているといいですね。

“ほん屋” of the students, by the students, for the students
※この発刊紙は、学生が作るニュース(図書館発刊)です。

【情報通信システム工学科 本科2年 大城翼】

『夜は短し歩けよ乙女』 森見登美彦 著

世界観がとにかく独特で、現実とファンタジーが組み合わさり引き込まれるような作品です。京都が舞台になっているのに、騒がしくて慌ただしくて、私たちが知っている京都とは似通っているが全く別物の世界にいる感覚を味わいます。

主人公が「THE・文系」と言い表せるほど難しい言葉遣いをするので普段あまり本を読まない人にとっては何のことだかわからないかもしれないけれど、よくよく読み込んでいけば主人公の思考と行動のギャップが面白いと感じるかもしれません。

話し手がころころと変わりますが、結局は恋愛小説ですので、一番の見どころは主人公とヒロインのシーンです。若者同士らしい青春の甘酸っぱい感覚が読み手にも伝わってきます。

最近では映画化もされた作品で、小説と映画の両方をお勧めしたいです。また、同じ作者さんが書いた「四畳半神話体系」という作品はアニメ化もしているので、難しい本が苦手だという人もぜひご覧になってみてください。



【総合科学科 教授 星野恵里子先生】

『わたしを離さないで』 カズオ・イシグロ 著

一名前の秘密ー

Kathy H, Reggie D, Peter B, Arthur H, Susie K...本書に登場する人物にはこのような名前がつけられています。このような名前を見て皆さんは何を思い浮かべるでしょうか。「匿名?」「イニシアル?」。ではいつフルネームが読者には知らされるのでしょうか。たとえば主人公で語り手のKathy HのHとは? Hillさん? Hawthorneさん?ところが最後まで主人公のHが明かされることはありません。なぜならば主人公のHとは、匿名でもイニシアルでもなく、単なる「記号」にすぎないからです。記号しか持たない登場人物たちの出自の秘密がわかるころには、何とも言えない不気味さを読者は感じてきます。

Never Let Me Go(『わたしを離さないで』)は映画にもなり、また日本でも綾瀬はるか主演でテレビドラマにもなりましたから、見たことのある人もいます。長崎生まれの英国の小説家であり、本年のノーベル文学賞受賞作家であるカズオ・イシグロによる本作は、何とも重いテーマを我々に提示したものです。図書館にも日本語訳がありますので、ぜひ一読をお奨めします。自分の幸運さを改めて感じることでしよう。



【生物資源工学科 本科2年 比嘉菜緒】

『それでいい。』 細川貂々・水島広子 著

「自分のこと、ちゃんと認められていますか?」そんなシンプルな問いから始まる一冊。「ネガティブ思考クイーン」の漫画家貂々さんが、精神科医の水島さんのもとで対人関係療法を用い自分自身を見つめなおす成長物語です。対人関係療法とは、「病気は対人関係の中で発症し対人関係のおかげで治る」というところに焦点を当てた療法です。人は人と接していないと生きていけない、しかし人と接するからこそ多くの悩みや病気が引き起こされてしまう。その問題を、人と接することで解消することが目的です。

この本では2つの大事なポイントがあります。この2つを押さえ、自分に優しく「これでいいんだ」とありのままを認めることができれば、気負わず楽に生きていけると思っています。(2つのポイントは、ぜひ本を読んで知ってほしいです。)どんなときにも「自分を認める」ことで、世界の見え方って大きく変わるんですよ。



図書館は
静かに利用しましょう!

図書を**延滞**している学生は
早めに返却をお願いします!

店主の呟き

高専祭前は台風が近づき、準備が間に合うのかと思われましたが、高専祭は無事に終わって良かったですね。1年生は初めての高専祭となり、高校と違う雰囲気を感じることができたのではないのでしょうか。

また、5年生は最後の高専祭となり、良い思い出になったのではないのでしょうか。

さて、後期中間テストがあります。テストに向けて頑張ってください!